

恋するねこの物語

路地裏に、ある一匹の野良ねこがいました。
今までずっと、一匹で育ってきた野良ねこです。

ある夜、彼は窓辺で星を眺めているかわいい女の子のねこを見つけ、固まってしまいました。
彼は一目で恋におちました。

彼は毎夜、星を眺める彼女を見つめ、毎朝彼女を想うのです。

彼は彼女を遠くから見つめているだけでは我慢できず、勇気を出して話しかけました。
すると、どうでしょう。

彼女は優しく微笑みながら返事してくれたのです。
"いつも来てくれてたね、一緒に星を見ましよう"と
彼女は気がついていました。彼が来ていたことを。

しばらくこんな夜が続き、いつしか二人は共に"この時間が永遠に続けばいいのに"と
思っていました。

彼は決めました。

"きっと彼女にふさわしい雄ねこになって、彼女と結婚するんだ"と・・・
しかし、野良の彼には何も彼女に誇れるものがありません。

彼は、体は汚れたし、食べものをとってくる事もうまくはありませんでした。

彼は一生懸命に考えました。

まず、身なり。

"汚れをおとし、いいものを身につけよう!"

川で汚れを落とし、わずかばかりの財産で新しい靴、洋服を身につけ、着飾りました。

彼は鏡を見ながら"身なりは良し! つぎは・・・狩りだ!"

彼は狩りの練習をたくさん行いました。

"よし、これで彼女を空腹で困らせることはない!"

努力が実り、彼は狩りが上達しました。

彼は自信をつけ、ふたたび彼女に会うことを決めました。

彼女はずっと彼を待っていたのに・・・

数年の歳月がたっていました。

彼は彼女の前に現れた時の驚いた顔を想像し、ワクワクしながら森から町へと歩きます。

満月の夜、いつもの路地裏を抜け、ついに彼女の家までやってきました。

彼女はいつもと同じように、いつもの窓辺から星や月を眺めています。

いなくなった彼を想いながら・・・

彼は月にも祝福されているような気持ちです。

高鳴る胸の鼓動を押さえつけながら、彼は彼女に"やあ! 久しぶりだね"
と声をかけました。

月明かりに照らされた彼の姿を見た彼女は驚きました。

そして怯えながら"誰?"と・・・

そう、彼は立派な トラ になっていました。

体には模様が入り、狩りができる立派な爪と牙を持っていました。

ようやく、トラ と 野良ねこ の彼が同じだと気づいた彼女は、悲しげな表情を浮かべ言いました。

"素朴なあなたが好きだった。同じ目線で、同じ感性の…昔のあなたは遠くへ行ってしまった"と…

彼はやっと気づいたのです。彼女の求めていたものに…

後悔しても、もう引き返せないのです。

そして彼はこの野路裏ではなく、彼の居場所である森へ帰って行きました。

彼は毛皮がほめられても、狩りがうまくいっても、満たされることはなく彼女を想います。

彼女は涙をたたえたその瞳で、森とその上の星を眺め、"私たちには、もっと話し合う時間があったのに…"と彼を想います。

それでも2人は、いつか思いが叶う事を信じ、日々を過ごすのです。

月を、星を見て、日々を過ごします。

"いつか迎えに行くからね"

"いつか迎えに来てね"

と…